

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®] 認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 瀬戸内漁業協同組合

住所：鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津38

氏名：代表理事組合長 上田 哲生 ⑩

法人番号：6340005004857

(共同申請者) 鹿児島県瀬戸内町

住所：鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津23

氏名：町長 鎌田 愛人 ⑩

法人番号：5000020465259

(共同申請者) 瀬戸内町ネリヤカナヤの海推進協議会

住所：鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津38

氏名：会長 上田 哲生 ⑩

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	瀬戸内町ネリヤカナヤの海協議会in奄美大島

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の新たな創出
プロジェクト情報	<p>1-1申請者 瀬戸内漁業協同組合（以下、当漁協） 鹿児島県瀬戸内町 瀬戸内町ネリヤカナヤの海協議会（以下、当協議会）</p> <p>1-2 実施者 （1）当漁協 鹿児島県瀬戸内町の漁業者の協同組合組織。漁業権の管理や水産物の流通のみならず、瀬戸内町と連携した漁業経営の基盤である海洋環境の保全に積極的に取り組んでおり、今回J-ブルークレジットとして申請するマングローブ植栽の主体。 （2）鹿児島県瀬戸内町 鹿児島県と密接に連携しており、藻場造成やマングローブにかかる技術的指導やマングローブの種採取等、地元学校への環境教育の場の提供などの調整を実施。また、取り組みの対外発信として、環境省”自然共生サイト”認定の支援を実施。 （3）当協議会 当協議会は当漁協およびその組合員がコアなメンバーとなっており、代表理事組合長が協議会会長を務める、町内外の企業、瀬戸内町、アカデミアとの連携を推進する枠組み。藻場の回復・保全のための基盤構築（投石）や食害をもたらす魚類の侵入を防ぎ、藻場を保育する囲い網の設置、管理等、クレジットの直接的な裏付けとなる活動を当漁協・瀬戸内町・当協議会が中心となって実施している。 （4）当協議会メンバー（地元企業等）および地元学校 マングローブ植栽や生物調査への参加等を通じて、当漁協・組合員と連携し、環境教育・地域貢献の機会という位置づけをもちながら、活動に貢献している。</p> <p>2. プロジェクト開始時の状況 プロジェクトの実施地である瀬戸内町は亜熱帯の奄美大島の最南端に位置し、加計呂麻島を挟んで海峡を有する港町があり、沿岸部はリアス式海岸とサンゴ礁、ホンダワラ類等による藻場が形成され豊富な海洋生物が生息している。また、町内の小名瀬地区の干潟ではメヒルギ個体群が存在しており、マングローブの生態系が形成されており生物多様性を育んでいる。しかし、近年では、ホンダワラ類の顕著な減少や南方由来の魚類とウニ類の増加による食害である「磯焼け」やオニヒトデによるサンゴ礁への食害等といった町の漁業や文化を支えてきた自然基盤の劣化が深刻化している。当漁協は、町を連携として「瀬戸内町ブルーカーボンプロジェクト（https://www.town.setouchi.lg.jp/suisan/bluecarbon_project.html）」としてオニヒトデの駆除や藻場保護のための囲い網の設置、マングローブの植栽等の対策に取り組んできた。</p> <p>3. プロジェクトの立ち上げ理由 先述したような自然基盤の劣化が深刻かつ急速に進む中で、効果的かつスピード感をもって対策を講じてしていくための資金やノウハウの導入に加えて、次世代への取組継承の観点から、企業やアカデミア、子供たちを含む地域住民も含めた幅広いステークホルダーとの連携が不可欠と判断。そのための連携枠組みとして、当協議会を2024年に設立。プロジェクトをさらに加速させている。 なお、マングローブの造成について、人の手による既往の干潟の改変でもあるが、以下の点を踏まえて、干潟とマングローブを組み合わせた生態系の構築、維持が重要と認識。専門家の指導を得ながら、取組を進めている。</p> <p>① 炭素吸収・固定能力の優位性（気候変動対応） ・マングローブは 単位面積あたりの炭素吸収・固定が干潟よりも優位とされており、目的として掲げる気候変動対策に資する生態系である。 ② 生物多様性の拡張 ・干潟：底生生物・渡り鳥等、マングローブ：魚類・甲殻類・貝類等の保育・生息に適した環境であり、両者を組み合わせた生態系により、目的として掲げる生態系保全（生物多様性）を増進。</p>

プロジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> ・認定されている「自然共生サイト」のコンセプトとも親和的や「ネイチャーポジティブ」文脈にも合致。 ③ 防災・気候変動レジリエンス <ul style="list-style-type: none"> ・マングローブは根系による波浪・高潮・津波の減衰効果が大きいとされており、年々深刻化する台風等の異常気象による被害を軽減するソリューションにもなりうると認識（干潟単独では波浪減衰効果は限定的）。 ・気候変動で台風・高潮リスクが高まる中、沿岸住民や社会インフラの保護機能として優位。 ④ 社会・経済的便益（追加的な優位性） <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム、環境教育資源、漁場（養殖場）への栄養分供給など、地域経済への寄与を期待。 ・加えて、気候変動適応の観点から、北限の北上が予想されるマングローブにかかるノウハウ、知見の蓄積にも資するものと認識。 <p>4. プロジェクトの活動内容の説明</p> <p>4-1 マングローブの新たな造成・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マングローブ幼苗の植栽：地元学校や企業と連携し、2022年から累計790本の苗を小名瀬地域の干潟に植栽。なお、既存の干潟をすべてマングローブ生態系に改変することは先述のとおり企図していない。マングローブによる炭素吸収・固定、減災・防災の優位性や、干潟とマングローブを織り交ぜることによる生物多様性の増進、気候変動の緩和、適応等の目的を達成するために、専門家による指導を得ながら、取組みを進める ・植栽場所の環境モニタリング・生物調査：上記の植栽を実施するにあたり、生物多様性への影響がないか環境調査を実施。 <p>4-2 ステークホルダーの巻き込み</p> <p>① 地元学校（小中）・企業によるマングローブ、植栽観察体験の機会提供 ：PJ開始以降、2024年度までに累計実施回数8回、参加者：150名以上</p> <p>② 企業からの資金動員：企業版ふるさと納税を活用し、町外企業からの資金動員を行い、PJを促進</p> <p>③ 多様なチャネルでの情報発信・対外訴求：当協議会およびプロジェクトの取組みについて対外訴求を図るとともに藻場、ブルーカーボンの普及啓発を企図として、関係者が以下の講演等の対応。 2024年10月 自然再生・高校生サミットでの地元古仁屋高校がマングローブ等にかかる取組発表 2024年10月 環境省自然共生サイト認定 2024年12月 日本テレビ系 ウミコイ #58 での特集、取組紹介</p> <p>4-3</p> <p>申請プロジェクトがCO2吸収源の回復や拡大も目的としていることの説明 プロジェクトを申請する当協議会は、設置の目的を「地球温暖化や海洋環境の変化による「磯焼け」で消失した藻場の再生及びブルーカーボンの創出を通じて、カーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、地域振興に寄与するとともに水産資源の維持・保全、持続可能な水産業を実現することを目的とする。」と定めている。 当協議会が取り組む本プロジェクトは、藻場とマングローブのCO2吸収源としての機能に着目しつつ、サンゴ礁を含む生態系回復によって気候変動の緩和・適応、生物多様性保全、地域振興などの複合的価値（コベネフィット）を創出するもことを志向。</p>
クレジット取得理由	<p>本申請によるクレジットの取得は、マングローブの吸収量としては小規模なため、当漁協や当協議会の活動の維持や発展を単独で支える経済的なリターンにはならないものと認識。そのうえで、クレジットの背景にあるマングローブの回復・維持につながるアクション、自然共生サイト等の発展性を十分理解、共感いただけるステークホルダーに購入いただくことを通じた対外訴求効果を主に企図してクレジット取得を行いたい。本協議会による様々な活動を通じて、発足時には瀬戸内漁業協同組合、瀬戸内町をはじめ、法人メンバー2社だったところ、2025年7月現在では法人メンバーは4社と拡大。多くの企業が関心を寄せるカーボンクレジットを取得し、適切に販売、訴求していくことでさらに連携の環を拡大していくことが可能と認識している。なお、</p>

クレジット取得理由	<p>本協議会はメンバー制度の中で、参加企業等に一定の寄付等を負担いただいております。活動趣旨を理解し、参加いただくことが、当協議会の財務的基盤ひいてはブルーカーボン創出に向けた活動基盤を維持することに直結する。</p> <p>また、Jブルークレジットとしては、マングローブ生態系を対象とするクレジットが現状では認証実績がない中で、本プロジェクトの認証は、本邦初のマングローブ由来のクレジットとして、本邦におけるマングローブ生態系の存在や役割にかかる理解深化にも貢献できるものと認識。</p>
クレジット取得後の計画や見通し	<p>当協議会では、藻場の再生・保全、マングローブ植栽を主とした取組み、気候変動やネイチャーポジティブを意識した発信と多様なステークホルダーの巻き込み、カーボンクレジット等の取組みを基本的な活動のループとして設定している。今回の申請は当協議会にとっては初であり、クレジット取得に至れば、瀬戸内町ブルーカーボンプロジェクトとして数年間継続してきた活動をループとして一巡として取り組めたこととなる。</p> <p>当協議会のルールとして、クレジットは協議会にいったんは帰属させ、その配分等については貢献度合いに応じてメンバーでの協議により決定することとしているが、初となる今回の取得については、先述したように対外訴求を強く意識して、戦略的に販売を行うことも検討している。</p> <p>なお、当協議会のブルーカーボン創出に向けた取組みは単年度契約、当面（5年程度）の取組み、中長期的に実現を目指す姿として策定しており、クレジットの取得有無にかかわらず着実に取り組んでいくことを想定（添付資料3参照）。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>プロジェクト概要の4で主に記載した中で、今回のクレジット取得の対象期間においてマングローブの形成と対外訴求につながったと認識する取組みは以下のとおり。</p> <p>（2023年活動実績）</p> <p>①マングローブの植栽活動（合計564本移植） 地元学校や企業と連携したマングローブの植栽を4回実施、参加人数計84人。</p> <p>（2024年活動実績）</p> <p>①マングローブの植栽活動（合計226本移植） 地元学校や企業と連携したマングローブの植栽を1回実施、参加人数計44人。</p> <p>②地元学校および企業への環境教育の機会提供 マングローブ林の保全とブルーカーボンについて研究者を招聘し講演会を実施。参加人数計30人。</p> <p>③自然共生サイト認定および各種講演等 先述のとおり。</p>
プロジェクト実施開始日	2021年7月～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】マングローブ 【藻場】マングローブ 【構成種】マングローブ
	②クレジット認証対象期間	2023年09月01日～2024年08月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.016523(ha) 【面積の算定根拠】 添付資料参照 【面積の資料】 (添付資料1-2)小名瀬計測.xlsx (添付資料4-1)小名瀬エリアA.pdf (添付資料4-2)小名瀬エリアB.pdf (添付資料4-3)小名瀬エリアC.pdf (添付資料4-4)小名瀬エリアD.pdf (添付資料4-5)小名瀬エリアE.pdf (添付資料4-6)小名瀬エリアF.pdf (添付資料4-7)小名瀬エリアG.pdf (添付資料4-8)小名瀬エリアH.pdf (添付資料4-9)小名瀬エリアI.pdf (添付資料4-10)小名瀬エリアJ.pdf (添付資料1-1) 吸収量計算 樹高 (半径) .xlsx
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 4.76 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 Jブルークレジット認証申請の手引きより 【単位面積あたりの吸収量の資料】 (添付資料1-2)小名瀬計測.xlsx (添付資料1-1) 吸収量計算 樹高 (半径) .xlsx

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.078(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：0.016523(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 80%</p> <p>(吸収係数：4.76×評価：80%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 0(t-C02)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 今回申請対象とする期間前には干潟となっており、マングローブ林による炭素蓄積は存在しなかったと考えられるので、ベースラインは0とする。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.053(t-C02)

項目2	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】マングローブ 【藻場】マングローブ 【構成種】マングローブ
	②クレジット認証対象期間	2024年09月01日～2025年08月31日
	③対象とする面積	【面積】 0.018946(ha) 【面積の算定根拠】 添付資料参照 【面積の資料】 (添付資料1-2)小名瀬計測.xlsx (添付資料4-1)小名瀬エリアA.pdf (添付資料4-2)小名瀬エリアB.pdf (添付資料4-3)小名瀬エリアC.pdf (添付資料4-4)小名瀬エリアD.pdf (添付資料4-5)小名瀬エリアE.pdf (添付資料4-6)小名瀬エリアF.pdf (添付資料4-7)小名瀬エリアG.pdf (添付資料4-8)小名瀬エリアH.pdf (添付資料4-9)小名瀬エリアI.pdf (添付資料4-10)小名瀬エリアJ.pdf (添付資料1-1) 吸収量計算 樹高 (半径) .xlsx
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 4.76 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 Jブルークレジット認証申請の手引きより 【単位面積あたりの吸収量の資料】 (添付資料1-2)小名瀬計測.xlsx (添付資料1-1) 吸収量計算 樹高 (半径) .xlsx

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.09(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 85%</p> <p>(面積：0.018946(ha)×評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】 80%</p> <p>(吸収係数：4.76×評価：80%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 今回申請対象とする期間前には干潟となっており、マングローブ林による炭素蓄積は存在しなかったと考えられるので、ベースラインは0とする。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.061(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	0.1 t
------------------	-------